

# これだけは知っておきたいジーンズ用素材

## 1. デニムの種類

デニムの基本色はインディゴ・ブルーで、通常は濃色ですが、あらかじめ使いこんだように見えるよう、染色・加工の段階で色をあせさせたものもあります。色の濃さによって、ウォッシュアウト、フェードアウト、ブリーチアウトと呼びブリーチアウトが最も色あせた感じのものです。ブルーデニムはインディゴデニムの総称ですが、色目（シェード）から、ウォッシュアウトデニム、フェードアウトデニム、ブリーチアウトデニムと呼ぶときもあります。こうした色の濃淡以外に、縞柄や格子柄のデニムもあります。特にヒッコリーとよばれるストライプデニムは、昔からポピュラーで、オーバーオールに好んで使用されてきました。



原 布



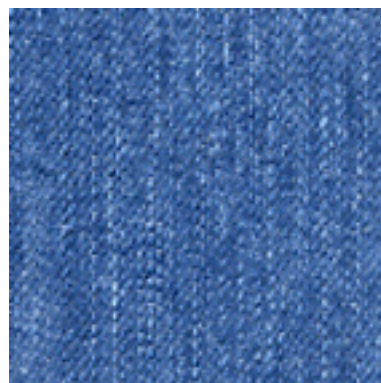
ヒッコリーストライプ



ワンウォッシュ加工



フェード加工



ブリーチ加工

先染のストライプ柄だけでなく、ふつうのデニム表面にプリント柄をほどこしたものもあります。

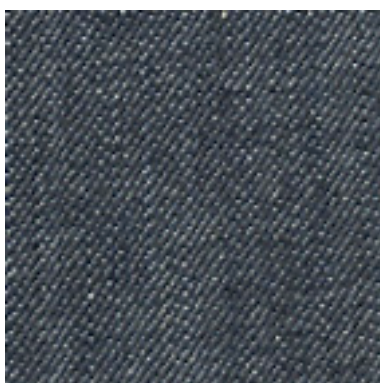
ブルーデニムはインディゴ染ですが、インディゴ以外の他の染料をつかった場合にはこれを“カラーデニム”といいます。そのなかで黒色（多くは硫化染料）をつかったものは、

ブラックデニムといわれ、いろいろな織組織、番手づかいのものがああります。

普通のデニムの織組織は綾組織で、3／1 綾組織、2／1 綾組織で、ヘビーウエイトデニムは3／1 綾組織が中心です。一般に太番手の綾織綿布、特に3／1 綾織の織物は、洗濯後原布にかなりのネジレが発生し、製品になったときレッグツイストの問題をおこします。従って、この問題をさけるために、前述通り、生地最終の仕上げ整理の工程でネジレ防止の加工（スキュー加工）をほどこすか、縫製工場で型入れの段階で変形型を用いてネジレの発生を防止する方法がとられますが現在は前者の方法が多いようです。



デニム（2／1 綾）



デニム（3／1 綾）右綾



デニム（3／1 綾）左綾

※ブローケン・ツイル（Broken・Twill・Denim）は、この厚地綾織物の原布に潜在するネジレの発生を、織組織を工夫することによって防止しようとするものです。綾組織を、3／1 ツイルの変形で、ある数ずつで反対の方向に並べることによって、綾目を途中で寸断して織りあげたものです。従って、綾組織が方向転換するところにブレイク・ラインがあらわれることもあります。杉綾もブローケン・ツイルの一種ですが、方向転換をこまかく行くと杉綾にみえなくなり、いわゆるブローケン・ツイルとなります。

従来、デニムと言えは、3／1 ツイル、2／1 ツイル、ブローケン・ツイルと相場がきまっていたましたが、多様化の波はデニムにも押し寄せ、以上の織組織以外に杉綾・経ピケ・その他の変わり組織やドビー柄のデニムがあらわれてきました。普通のデニムと対比して、これらのデニムはファンシーデニム（Fancy・Denim）ともいわれます。



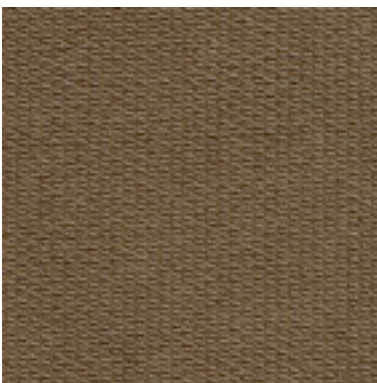
ブローケンデニム

※ 杉綾（ヘリンボン・ツイル＝Herringbone・Twill）とは綾目の方向を一定の間隔をとって切りかえることによって、綾目の流れがジグザグになり、にしん（Herring）の脊椎骨の形、あるいは杉の葉の形を織りだすところから、こんな名称が出ています。綾織の変化組織としては最もポピュラーなものの一つです。



ヘリンボーンデニム

※ 経ピケ（Warp・Pique）は、別名ベッドフォード・コード（Bedford・Cord）ともよばれ、経方向に太目の畝（うね）を織りだした厚手の丈夫な織物をいいます。一般にピケというと緯方向に畝のある織物をいい、波形の畝のあるものはアート・ピケ（Art・Pique）とよばれます。



ピケ

ワーキングウェアからスタートしたジーンズも、時代の変化と共にカジュアルライフの影響を受けて、ジーンズの範ちゅうが広がりました。ワーキングウェアとしての機能とカジュアルウェアとしてのファッション性、この両極化が今日のジーンズ市場であると言えます。

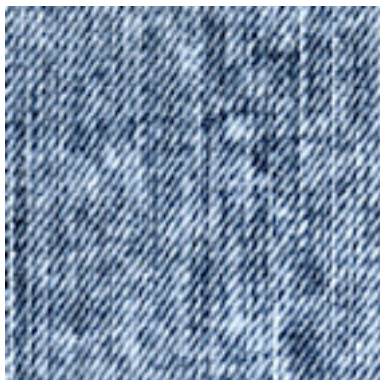
ジーンズ市場のこの二極化現象とマーケットの成熟化は、ジーンズの素材にも大きな変化をもたらしました。ジーンズの基幹素材である、最も素朴な、簡潔な素材、デニムもいろいろなバリエーションが出来ました。織組織の変化ばかりでなく現在では原綿素材・番



手・撚り・密度（本数）及び色や柄のバリエーションと種々な洗い加工との組み合わせ、さらには品質のバリエーションとの組み合わせがあり、従来からの伝統的デニムも華々しく拡大されてきました。特に 80 年代になって、マーケットの成熟化がはっきりして来るに従って、素材の変化・差別化がますます求められるようになってきています。



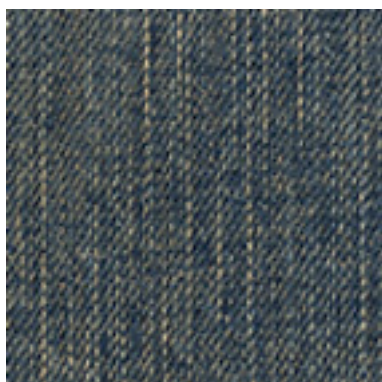
バイオストーンウォッシュ加工



ケミカルウォッシュ加工

これまで述べてきましたデニムに、更に起毛したり、エンボス加工したり、オーバーダイしたり、抜染したり特殊洗い加工したりなど種々の追加加工がほどこされるケースが増えてきています。

ブルーデニムの品質は伝統的には綿 100%ですが綿以外に麻や羊毛の混紡ないし交織の麻混デニム、ウール混デニム、シルク混デニムなどがファッション性、シーズン性を買われて登場し最近では、ソフトジーンズの要望からレーヨン 100%及びレーヨン綿混、レーヨンエステル混等の複合素材も注目を浴びてきた。しかし、ジーンズ素材としての普段着・洗濯頻度を考えると、綿 100%がデニムの最も基本的な品質であることには違いありません。



オーバーダイ染色加工



セルビッチデニム



ジャガードデニム

## ※ストレッチデニム

デニムに伸縮機能を加えるため、経糸か緯糸ないしは両方にポリウレタン弾性糸をつかったストレッチデニムも、一部のジーンズに根強く使用されて定着してきております。ス

トレッチヤーンとしては、ポリエステルやナイロンなどの加工糸を使用したものもありますが、スパンデックス糸を芯として綿をカバーしたコアー・ヤーンかスパンデックス糸と綿糸を合糸したツイスト・ヤーンが一般的で、ストレッチ性、リカバリー性共に前者より優れているといえます。コアー・ヤーン、ツイスト・ヤーンとも綿 95%・ポリウレタン 5% ほどの品質構成となり、高い伸縮性のほかは、綿織物本来の性質をそのままそなえています。



ストレッチデニム

## 2. デニム以外のジーンズ素材

デニムに続くジーンズの主要素材というと、先ずコードデュロイ、太綾（ふとあや）、サテンドリル、キャンバスが挙げられます。これらの素材は、デニムが先染織物であるのに対し、生地状態で染色されますので、後染織物といわれます。

※コードデュロイ（Corduroy）は、経方向にパイルの畝がある立体感のある織物で畝の太い豪華なものから、ごく細い繊細なものまでいろいろの風合のものがああります。畝の太さにより、鬼コール（6本前後）、中太コール（9本前後）、細コール（15本前後）、極細コール（さらに細いもの）に分けられます。コードデュロイは1インチ（2.54cm）間の畝の本数で呼ばれます。

これらのコードデュロイのうち、ジーンズには、14 畝、11 畝、8 畝のコードデュロイが一番多く使用されています。コードデュロイのパイルは、毛緯（けよこ）と呼ばれる緯糸が、剪毛（せんもう）ナイフまたは剪毛機により、切り開かれてでてきたもので、剪毛の技術的理由などから綿以外の繊維では、うまくできない織物です。毛緯と経糸との組織の仕方で、W パイルとVV パイルがあり、W パイルの方が毛羽が抜けにくいですが、組織が粗い欠点もあります。ジーンズにつかわれるコードデュロイは毛抜けの少ない W パイルが適しています。また地組織は地緯とよばれる緯糸と経糸とで、平織または綾織で織られますが、綾織の方が布の腰がやわらかく、また、緯糸を多く打ちこむことができるので、それだけパイルの密度も高くなります。無地染やプリントをほどこして使いますが、ドビー織機で柄模様をだした変わりコードデュロイや親子コードデュロイ、畝が目立たぬラフな風合のリブレ

ス・コーデュロイもあります。また洗濯収縮率や生地強力を高めるために、綿 100%の他・経糸や地緯にポリエステル混糸をつかったミニブレンド・コーデュロイがありますがこれはパイルにより保温性がすぐれているもので秋冬用素材に適しているものといえます。



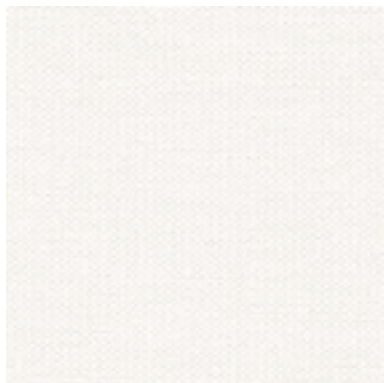
コーデュロイ

※太綾は、経緯に 20 番手以下の単糸を用いて 2/1、2/2、3/1 の綾に織ったもので、これをドリル (Drill) ともいいます。このなかには、古くから雲斉 (うんさい)、葛城 (かつらぎ) とよばれるものがあります。雲斉は主に 14~20 番手の双糸または三子の経糸に 10~20 番手の単糸または引揃えの緯糸を用い、インチ間に経 50~80 本、緯 50 本前後で主として 2/1 の綾に織ったもの、また、葛城は経緯 10~20 番手、経 70~100 本、緯 50 本前後で、主として 2/1 の綾に織ったものと、3/1 の綾に織ったものの二種類があります。葛城の方が雲斉よりも一般的にいて、経密度がつんでおり、従って斜文線の角度が急になっています。雲斉、葛城のほかにも、20 番手以下の綾でいろいろの織物があり、それらを総称して太綾と呼びます。また、柰糸 (もくいと) を使って雲斉織したものは小倉織 (こくらおり) と云われます。12~14 オンスクラスの晒の葛城は、ホワイトジーンズの代表的素材です。

※サテン・ドリル (Sateen・Drill) は、5 枚経朱子で、ドリルのような厚味を持った織物で、ドリルより腰がしなやかで、柔かい光沢をもっています。朱子織 (しゅすおり) は、光沢が美しく、滑りのよいなめらかな感触をもった織物で、この豊かさやつやは他の織組織よりすぐれています。布面に緯糸が多くあらわれたものを緯朱子、経糸が多くあらわれたものを経朱子と云い、通常 5 枚朱子または 8 枚朱子が多い。普通、20 番手より太番手の単糸づかいをサテン・ドリルといい、それより細番手づかいは綿サテンと呼んで区別しています。サテン・ドリルはサンド・ペーパーのようなものでこすって起毛し、これをエメリー起毛といいますが、ブラッシュド・サテンとしても使われます。なお太番手づかいの 3/2 か 4/4 の緯朱子は、起毛、シアリングしてスエードのような風合を出し、コットン・スエードと呼ばれます。



※ **キャンバス** (Canvas) とは経緯に太番手の双糸または引きそろえ糸を使って、平織組織で密に織ったもので、テントや帆にも使われる厚くて丈夫な織物です。



キャンバス

※ **ダック** (Duck)、帆布はキャンバスとほぼ同じ意味で使われていますが、一般にキャンバスの方は軽目のものをさし、ダックや帆布はどちらかといえば厚目のものをいいます。綿帆布の規格によると、通常 10 番手の糸を 2 本～8 本撚り合わせて経緯に使い、1 号から 11 号まであって、号数の少ないものほど地が厚くなります。



ダック

基本的なジーンズ素材については、今まで述べてきた通りですが、ジーンズのカジュアル化の方向で素材も多種多様になり使用される素材のバラエティはますます広がるばかりです。以上のほかにジーンズ用素材として綿素材では次の様なものがポピュラーな素材です。

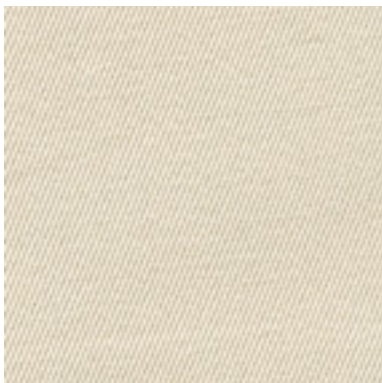
※ **シーティング** (Sheeting) とは日本でいう粗布（そふ）で通常 20 番手以下の太番手を使い、キャンバスより薄手の、経糸、緯糸の番手と密度の差があまりない平織織物です。麻布の粗野な外観に似せて、粗く平織に織りソフトに仕上げた生地で、ホップサック（ビール製造のホップの実を入れる麻袋）と呼ばれるものもあります。

※チノ（Chino）は英米でチノというのは、軍服に使われる丈夫な綾織物で、コーマーがけの双糸を経緯に使い、シルケット・サンフォライズ加工をほどこし、カーキ色に染めた純綿織物のことをいいます。この織物はもともと英国でつくられ、インド、中国へ輸出されていたものが、第一次大戦のとき、フィリピン駐留の米軍が軍服用に中国（China）から購入したところから、チノの名称が使われるようになったとのことです。



チノクロス

※ウエストポイント（Westpoint）とは日本で戦後大量に輸出された綾織物です。ウエストポイントは、ニューヨーク州東南部、米国陸軍士官学校のある場所の地名から取ったもので、本来ギャバジンの範ちゅうにはいる布地ですが、米軍の軍服用織物の規格にもとづく輸出織物であったため、この名前が一般呼称となったものです。チノは、日本でいうウエストポイントと同じものと思われる。チノは 1950 年代の終わり頃より、米国などで、一般の制服やカジュアルウェアに使われるようになり、特にジーンズが頂点に達する頃にデニムに代わる新しいヘビー・デューティ素材として取り上げられてチノクロスとしてクローズアップされました。

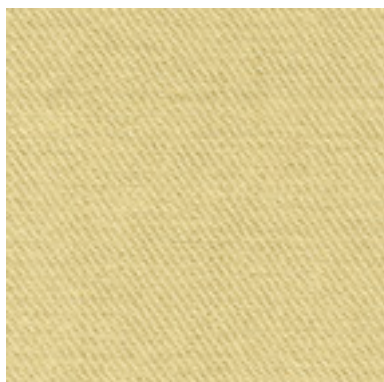


ウエストポイント

※ 綿サージは通常四つ綾と云っています。単にサージといえば経緯に梳毛糸（そもうし）の双糸を用いた毛織物のことになります。綿サージは、普通、経に 30 番手より太番手の双糸、緯に単糸または双糸を経緯ほぼ等しい密度で配し、2/2 の綾で織ったものです。



従って斜文綾は 45 度に近い角度で表裏反対の方向にありますが、同じ綾目であらわれます。綾目はやや平らな感じで、シルケットをほどこして光沢を強く出したり、起毛をしてフランネルとして使う方法もよく行われます。



サージ

※ 裏毛は緯編の一種で、表面は平編のように見えるが、裏面には太い甘撚りの糸が緯方向にパイル状に浮いて並んで見えます。これを起毛して裏毛を立て肌着として使うことが多かったので、この名称が使われています。この布地は、地が厚く、保温性があり、吸汗性にもすぐれています。最近はカジュアルウェアやジーンズ用素材に使われるようになりました。